

2024 年度入学者向け入試 一般選抜（第 1 次募集）民事法系【民法・商法】出題趣旨

I

（1）共有と合有について、持分処分や分割請求に対する制約の相違等にふれつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

（2）生来嫡出子と準正嫡出子について、それぞれどのような場合においてどの時点から嫡出子としての扱いを受けることになるかの相違等にふれつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

II

問（1）は、将来の売買代金債権が譲渡担保契約によって譲渡され対抗要件も具備されていた場合において、当該代金債権に基づく支払請求を譲受人から受けた買主は、売買目的物の契約不適合により売主に対して有するにいたった損害賠償請求権を自働債権とする相殺をもって譲受人に対抗することができるかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

問（2）は、譲渡制限の意思表示がされていた将来の売買代金債権が譲渡担保契約によって譲渡された場合において、当該代金債権に基づく支払請求を譲受人から受けた買主は、当該代金債権に対し強制執行をした差押債権者の取立てに応じたことによる当該代金債権の消滅を譲受人に対抗することができるかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

III

（1）固有の商人の意義についての理解をみる問題である。

（2）手形の期限後裏書の意義と効力についての理解をみる問題である。

IV

仮装払込みに関する法的問題、株主総会の決議の取消事由と裁量棄却、取締役の選任決議の要件等についての理解をみる問題である。